

幼児期に言葉の感覚を豊かにするための援助のあり方 ～「言葉遊び」「お話作り」を通して～

うるま市立天願幼稚園 教諭 国吉 貴子

I テーマの設定理由

幼児は、日常生活に必要な言葉を、まわりとのコミュニケーションの中で獲得していく。しかし、近年、高度情報化や少子化、核家族化、両親共働き世帯等、生活様式の変貌により、人間関係が希薄になり、人と人とが直接言葉を交し合う機会が減少しているといわれている。

幼稚園教育要領では「幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものである」と示されている。領域「言葉」においても「経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う」と明記されている。また、「幼児が自分の思いを言葉で伝えるとともに、教師や他の幼児の話を興味をもって注意して聞くことを通して、次第に話を理解するようになっていき、言葉による伝え合いができるようにすること」と示され、日常生活の中で伝え合う喜びを味わわせ言葉の感覚を豊かにすることが求められている。

本園の子ども達は、核家族、共働き世帯が多く、テレビの視聴時間やゲームをする時間が長いという実態がある。まわりとコミュニケーションをとる機会が少ない状況にある。そのため、自分の思いを言葉で表現する際に、「砂場で遊んで楽しかった」「サッカーして勝ってうれしかった」等の2、3語文にとどまり、なかなか言葉が広がらない傾向がある。これまで、その課題解決のために言葉遣いや表現方法などに意識を持たせ関わってきたが、幼児同士の言葉のやりとりに細かく目をとめたり、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を育てるための援助の工夫が不十分であったことに気付いた。

幼児の言葉は、保護者や教師、友達など身近な人とのかかわりの中で獲得される。話したいと思える相手、安心して話せる相手がいるということが大切であり、身近な大人の関わりが幼児の言葉に大きく影響を与えているといわれている。また、大人がよい聞き手となり、よい話し手となることで幼児の語彙力、表現力が広がるともいわれる。幼児は生活の中で、友達や教師の言葉や、絵本・お話の言葉を取り入れたりしながら、言葉の感覚を磨き、表現が豊かになる。つまり、幼児の言葉の感覚を豊かにするためには、生活の中で言葉の楽しさや美しさ、おもしろさに気づかせ、伝え合う喜びを味わわせることが重要であると考えた。

そこで本研究においては、子ども達が主体的に遊びながら言葉の楽しさや美しさに気付くような「言葉遊び」や、言葉で思いを伝え合う喜びを味わえるような「お話作り」を通して、言葉の感覚を豊かにしたいと考え、本テーマを設定した。

II 研究目標

「言葉遊び」「お話作り」を通して、言葉の感覚を豊かにするための指導、援助のあり方を探る。

III 研究仮説

1 基本仮説

幼児の興味関心に即した「言葉遊び」「お話作り」を取り入れ、指導・援助を工夫することによって、言葉のおもしろさや言葉で思いを伝え合う喜びを味わうことができ、言葉の感覚が豊かになるであろう。

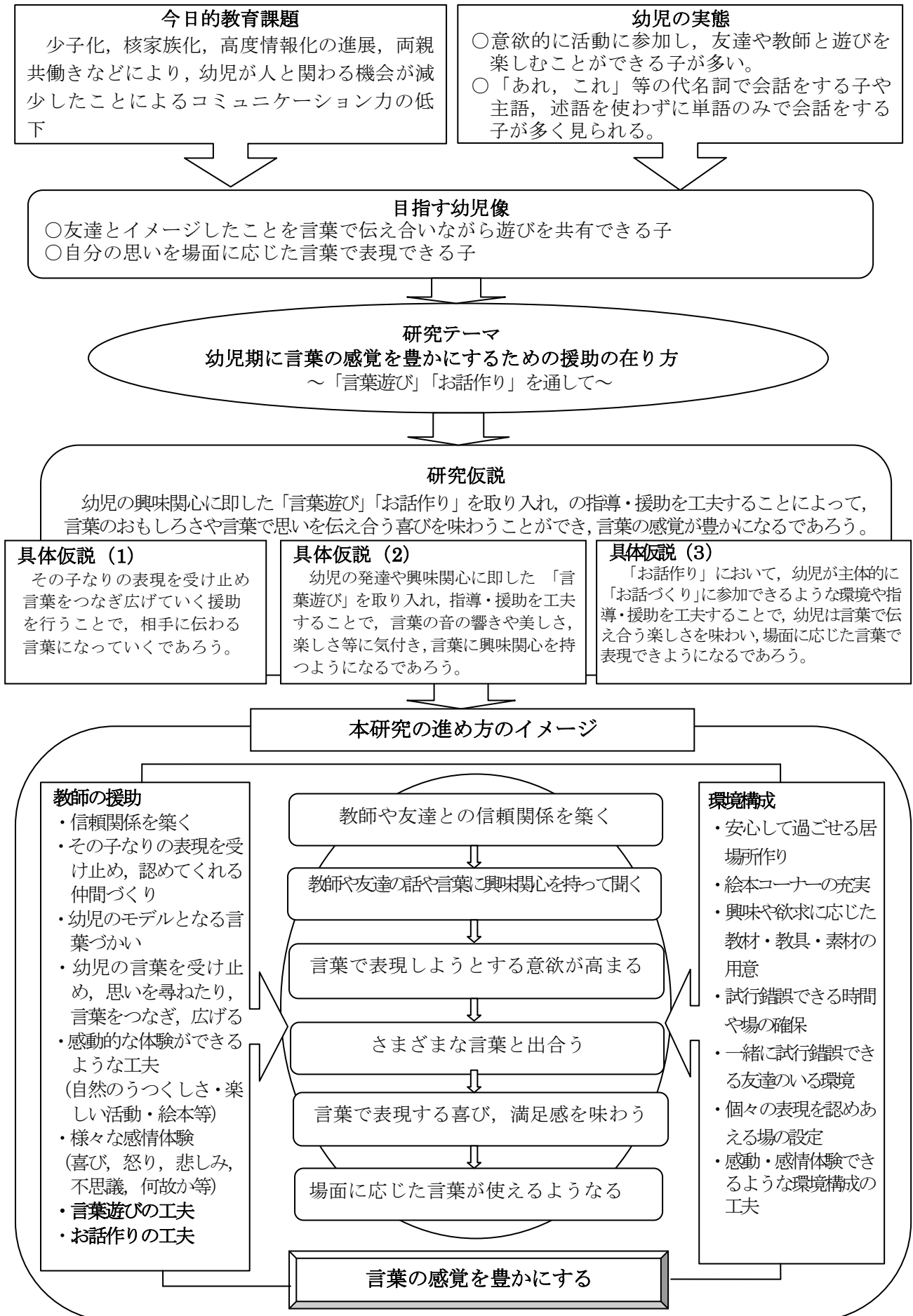
2 具体仮説

(1) その子なりの表現を受け止め、言葉をつなぎ広げていく援助を行うことで、相手に伝わる言葉になっていくであろう。

(2) 幼児の発達や興味関心に即した「言葉遊び」を取り入れ、指導・援助を工夫することで、言葉の音の響きや美しさ、楽しさ等に気付き、言葉に興味関心を持つようになるであろう。

(3) 「お話作り」において、幼児が主体的に「お話づくり」に参加できるような環境や指導・援助を工夫することで、幼児は言葉で伝え合う楽しさを味わい、場面に応じた言葉で表現できようになるであろう。

IV 研究の全体構想図



V 研究内容

1 子どもの言葉

子どもは3歳を過ぎる頃には、言いたいことをある程度言葉で表現することができるようになると言われている。しかし、体験や語彙量が少なく、自分の言いたいことをうまく言葉で表現できるわけではない。榎沢良彦(2008)は子どもの気持ちと言葉による表現との関係をジュースに浮かぶ氷に例え「ジュースを入れて氷を浮かべると、氷の一部分はジュースの上に出るが、残りの大部分はジュースの中に沈んでいる。この氷全体を子どもの気持ちと考えると、ジュースの上に出ている見える部分が子どもの言葉であり子どもの行為や行動である。ジュースの中に沈んでいて見えない部分は、言葉に表現できない子どもの気持ち」だと述べている。

このことから、子ども達と接している教師は、言葉に表現できない子どもの気持ちを汲み取るよう努力し、子どもが自分の気持ちを言葉で表現し、相手に分かるように伝えることができるようになるための援助をする必要がある。また、人的環境としての教師には、自分の言葉を意識し、豊かな美しい言葉で子ども達と会話をする心掛けが求められる。

子どもが言葉を獲得していくとどのような能力を得るのだろうか。榎沢(2008)と小田豊(2009)の考えを参考にし、言葉の獲得によって育つ能力について表にまとめてみた。

子どもにとっての言葉

①	コミュニケーションとしての手段 言葉で相手と心を通わせることもできるようになり、人と一緒にいることの楽しさを感じられるようになる。
②	思考の手段 理論的に道筋を立てて考えることができるようになる。
③	行動をコントロールする手段 「我慢、我慢」と言い聞かせたり、心の中で呟くなど、理性的に自分の行動を調節することができるようになる。
④	自己表現する手段 「自分はこう思う」「こうして欲しい」等、自分の思いや要求を表現できるようになる。
⑤	自我の形成(アイデンティティの形成) ①～④までを統合したとき「私は私である」という自我の形成ができる。 例えばコミュニケーションによって他者との違いを認識する。それに、物理的、社会的知識を理解する認知能力が加わり、チャレンジしたり自己規制したりして行動をコントロールする能力が、行動の幅を広げる。そのような過程で得た様々な知識や感情で、他者とコミュニケーションをとることで、その中央にいる自分、それが自己であり、自分であると認識する。

2 幼稚園における遊びと言葉

幼児の言葉は、遊びの中で獲得され、豊かになっていく。遊びの一般的性質として次の4つのことがいわれている。

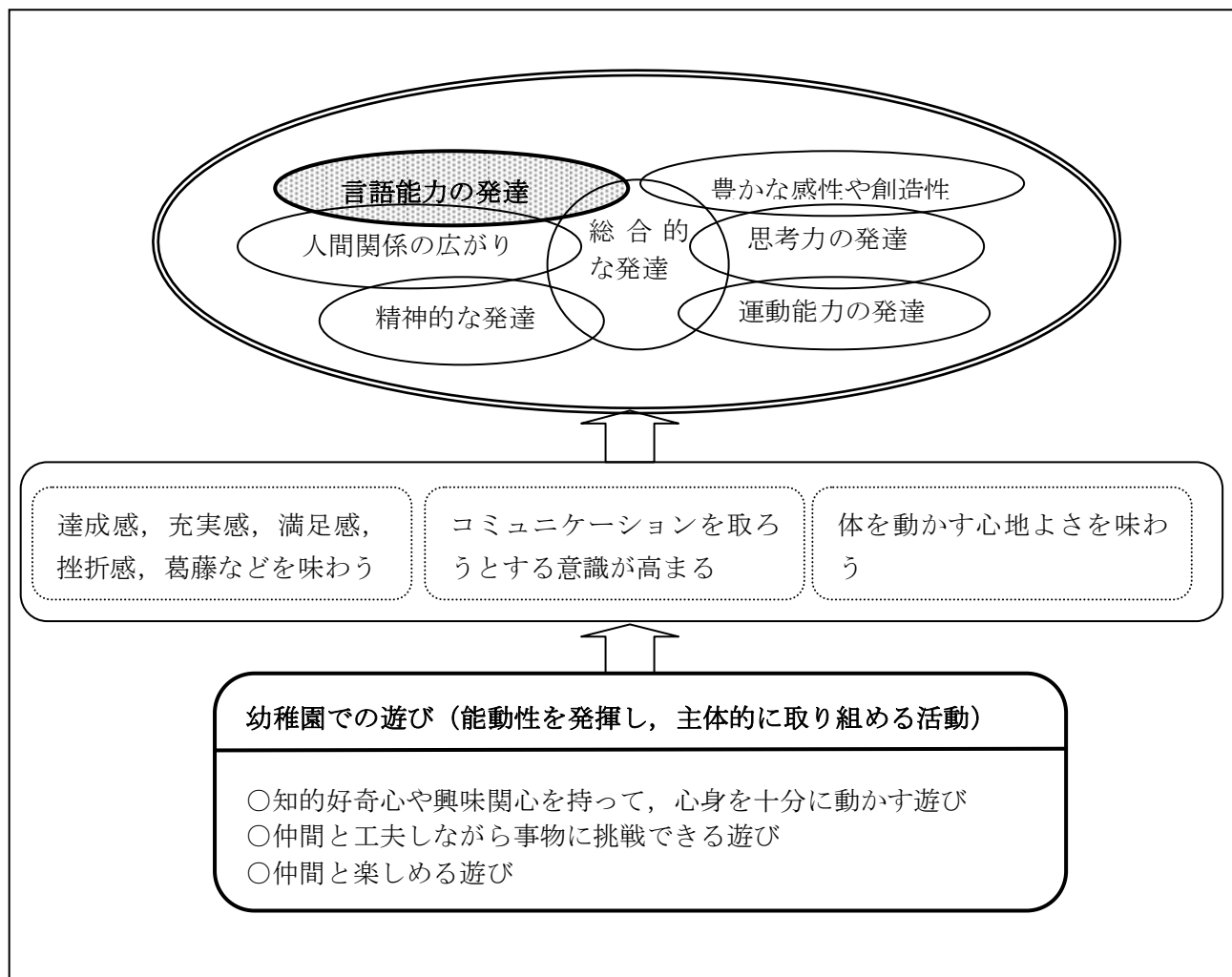
- ・遊び自体が目的となって営まれる
- ・自発性が強く解放度が高い
- ・比較的自由度が高く可変性に富む
- ・快適で楽しい感情に彩られて進行する

幼稚園教育要領では、次のように遊びの必要性が示されている。幼稚園では幼児の主体的な活動としての遊びを十分に確保する事が何よりも必要である。幼児は遊びの中で能動的に対象にかかわり、自己を表出し、そこから、外の世界に対する好奇心が生まれ、探索し、物事について思考し知識を蓄えるための基礎が形成される。また、幼児は友達と一緒に遊ぶ中で、コミュニケーションを取ろうとする意識が高まり、言語表現力を獲得していく。

秋田喜代美(2009)は「幼稚園における遊びとは、子どもが能動性を発揮でき、主体的に取り組むことのできる活動でありその遊びが運動機能や知的機能、言葉の獲得を発達させる」と述べている。また、岡本夏木(2009)は遊びにおける言葉の発達には、総合的な発達そのものをも大きくかえていくと述べている。

つまり、主体的な遊びは、言葉を根幹にしなが、幼児の総合的な発達を促すものであると考えることができる。

幼稚園での遊びと幼児の総合的な発達のつながりを図で示した。



3 幼稚園教育要領における領域「言葉」

幼稚園教育要領解説では、幼児期の言葉の発達について次のように示されている。幼児期の言葉の発達は個人差が大きく、表現の仕方も自分本位などところがある。しかし、教師や友達との関わりの中で、心を動かす体験を積み重ね、言葉を使って伝えたり、まわりからの言葉にふれ、言葉でやり取りしたりすることによって、次第に人に伝わる言葉になっていき、場面に応じた言葉になっていく。また、内容項目のほとんどが話し合う言葉にかかわる内容となっており、日常生活の中で言葉を学び、言葉が豊かに育つことを示している。

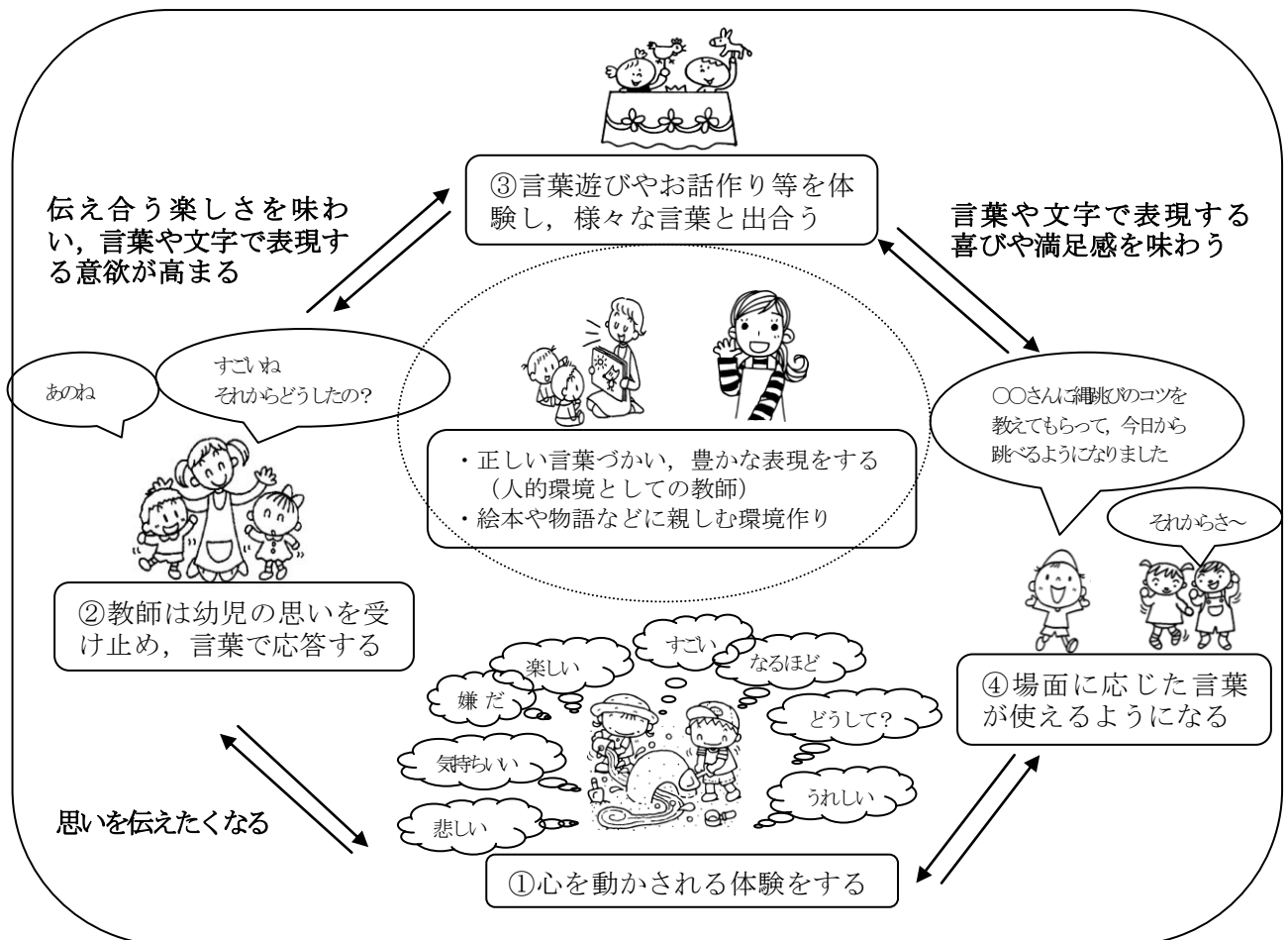
以上のことから、幼児が人に話したくなるような体験をし、自分なりの言葉で表現したときに、相手にうなずいてもらったり、言葉で応答してもらったりすることで、楽しくなり、言葉で表現しようという意欲が高まっていく。また、自分の気持ちが相手に伝わっていると実感できると、伝え合う楽しさを味わうことができる。このような体験を積み重ねていくことで、場面に応じた言葉が使えるようになってくると考える。

教師には、正しく美しい言葉を使い豊かな表現のモデルとなる役目も求められていることから、教師自身が言葉の感覚を高め、幼児の言葉を豊かにするために、さまざまな言葉を伝える努力をすることが大切である。

なお、内容項目に「日常生活の中で、文字などで伝える楽しさを味わう」と示されており、文字を使う喜びを味わわせる指導についても明記されている。また、幼稚園生活の中で、幼児が文字や記号に興味関心が持てるような環境構成に努め、それぞれの幼児が自然な形で理解できるように配慮する事が必要であるとしている。

以上のことから、幼児は日常生活の中で、話すこと、聞くことの経験を積み重ね、伝え合う喜びを味わう中で、文字などの必要性も感じ、文字も表現したいという意欲が高まり、理解できるようになると考える

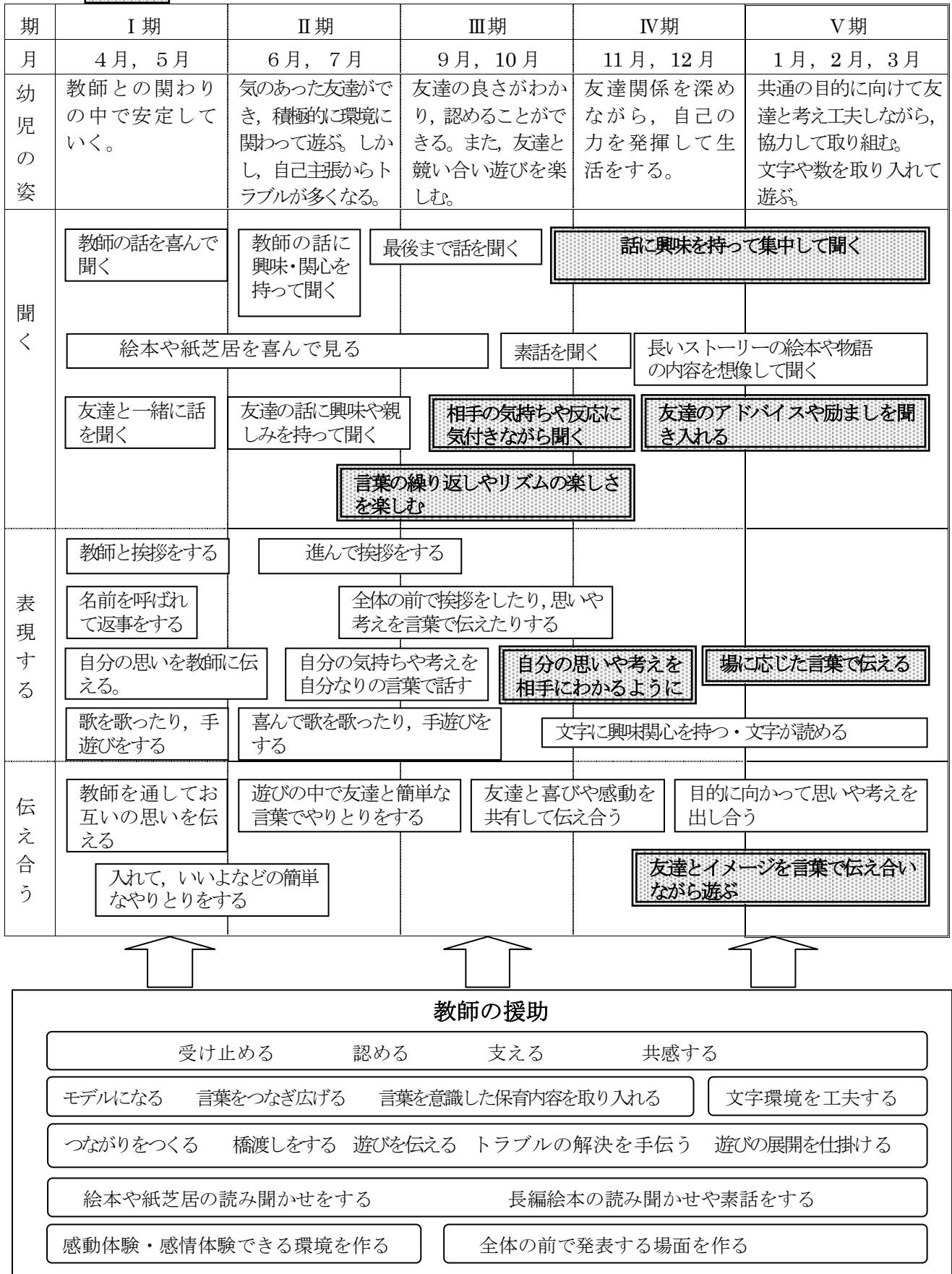
園生活における幼児の言葉の発達を図で表した。



4 幼稚園における言葉の育ちの過程

幼稚園生活1年間を通した言葉の育ちの過程と、育ちを促すための教師の援助を表にまとめた。

(は、本研究に関する内容を示している)



5 言葉遊び

乳幼児期からの、音の響きや美しさ、リズムとしての楽しさ等、豊かな言葉を聞き模倣することが、言葉の獲得につながり、言葉の感覚を豊かにすると言われている。中島千恵子(2009)は、「生活や遊びの中でたくさんの言葉に出会うことが、子どもの語彙を増やし、言葉に関する感性を磨く。言葉をよく聞くことができると、その刺激を自分の中に取り込んで、言葉がもっと豊かになっていく」と述べている。それらのことから言葉遊び等を通して、音の響きや美しさ、リズムの楽しさ等、言葉の面白さを感じ、様々な言葉に出会うことは大切であり、言葉遊び等、子どもに豊かな言葉にふれさせる遊びを意図的・計画的・継続的に保育の中で取り入れていく必要があると考える。

横山洋子(2007)と中島千恵子(2009)の考えを参考にし、言葉遊びの種類とねらいを表にまとめた。

	言葉遊び	ねらい(期待される幼児の姿)
1	しりとり	◎言葉に興味関心を持つ ◎語彙が増える ◎語頭語尾の音節に気付く ◎正しい発音をする
2	同じ音で始まる言葉集め (あいさつ ありがとう あいすくりーむ)	◎言葉に興味関心を持つ ◎語彙が増える ◎五十音に興味を持つ
3	「八百屋のお店で」等の仲間わけ	◎言葉の仲間分けができる ◎語彙が増える
4	早口言葉 赤パジャマ・青パジャマ・黄パジャマ となりの客はよく柿食う客だ	◎言葉の音やリズムの楽しさを味わう ◎言葉の意味を理解する
5	数え唄(数が出てくる歌)	◎数字に興味関心をもつ ◎助数詞の使い方を知る
6	伝言ゲーム	◎言葉への注意力、記憶力が身につく
7	反対言葉 (小さい⇔大きい)	◎言葉の意味を理解する ◎語彙が増える
8	同音異義語 (雨・飴 クモ・雲)	◎言葉の面白さや楽しさを味わう ◎言葉に興味関心を持つ
9	擬声語(音)・擬態語 (ごーごー, ぽつぽつ, にやり)	◎様子や音を現わす言葉に関心を持つ ◎言葉で表現する楽しさを味わう
10	なぞなぞ遊び	◎問題の言葉をよく聞き、答えとなる物の名前を考え、 推理力を養う
11	つながり言葉 (いろはにこんぺいとう→こんぺいとうはあまい →あまいは→さとう→)	◎言葉のリズムの楽しさを味わう ◎答えとなる物の名前を考え、推理力を養う ◎色々な物の特徴を知る
12	逆立ち言葉 (セミ⇔みせ かさ⇔さか)	◎言葉の面白さや楽しさを味わう ◎言葉に興味関心を持つ
13	つみかさね言葉 (これはねこ、これはねこのひげ、これはね このひげに・・・)	◎言葉の意味を理解し、答えとなる物の名前を考え、推 理力を養う ◎創造力や思考力を養う
14	言葉の中の言葉探し (にわとり→ にわ、わに、 とり)	◎言葉の面白さや楽しさを味わう ◎言葉を注意して聞く ◎言葉に興味関心を持つ
15	語呂合わせ(だじゃれ)	◎言葉の意味を理解し、言葉の音の楽しさや面白さを味 わう
16	絵描き歌	◎歌や言葉に合わせた絵や図形の表現を楽しむ
17	文字スタンプで言葉を作る	◎文字に興味関心を持つ ◎文字を使って色々な言葉を作る楽しさを味わう
18	サイコロゲーム (サイコロの出た目の音節の数だけ進む)	◎言葉の音節に興味を持つ ◎文字を呼んで正しく発音できる

6 お話作り

幼児は心も考え方も柔軟である。見えないものをあるものとして見立てることが得意で、そのことは、お話作り等においても発揮される。秋田喜代美（2009）は「ごっこ遊びにおいては、参加する子どもがもつさまざまなイメージを、互いにやりとりすることによって共有し、調整しながら遊びを展開していくことが必要になる。ストーリーや役割、ものの見立て、状況設定などのイメージをやりとりするうえで言葉は重要な役割を果たす。と同時に、仲間にイメージをわかりやすく伝えようとする中で子どもの言葉はより豊かなものとなる」と述べている。

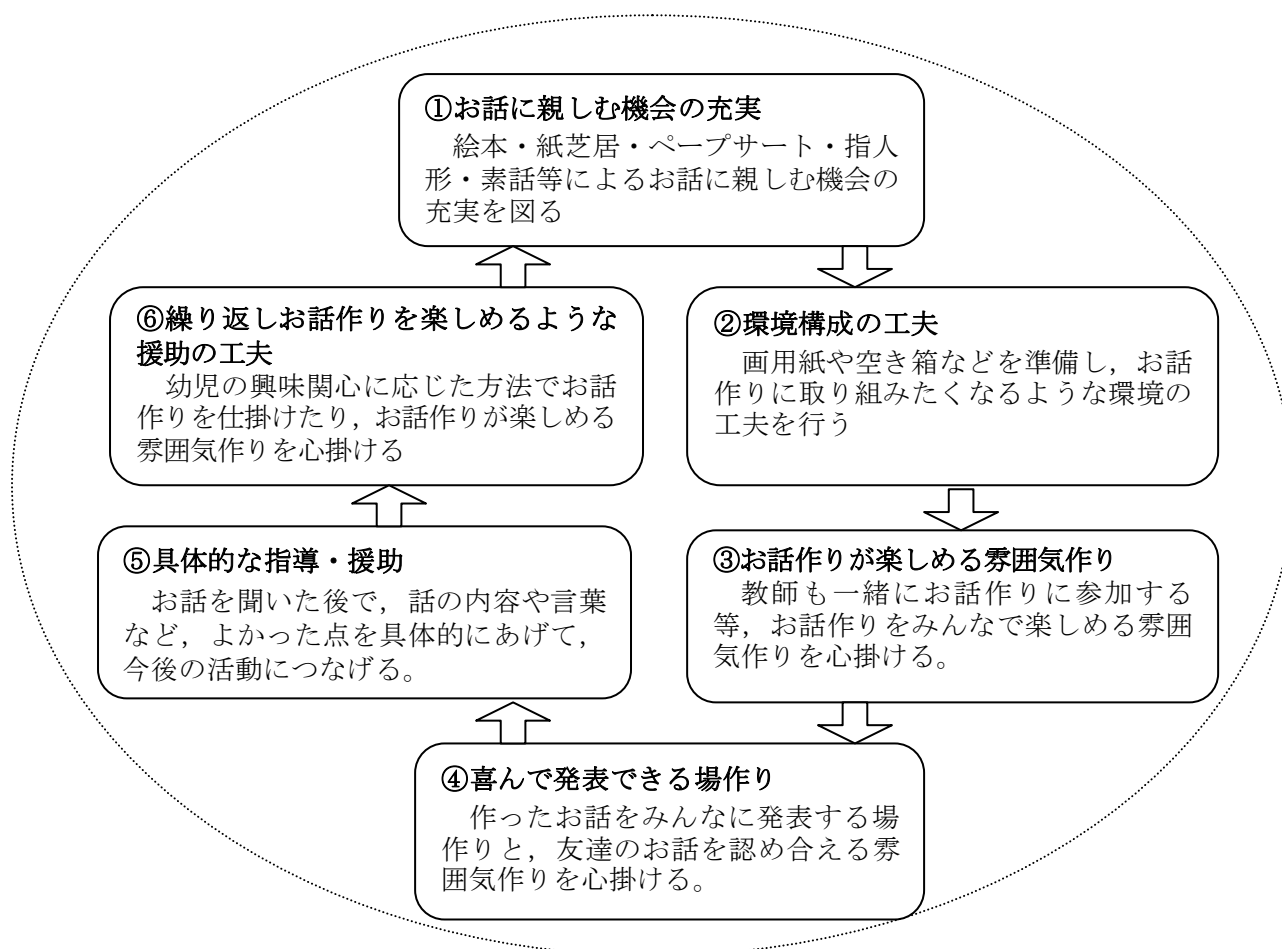
このことから、ごっこ遊びのひとつであるお話作りは、子ども同士の言葉のやりとりの中で展開され、役を演じながら言葉を使って自分のイメージを相手に共有してもらうために、より豊かな言葉へと発展し、互いの関係性を育てることにつながる。幼児はその場にはないものをあるものとして見立て、なりきって、活動を創造していくことが得意であるという発達の特徴を考えると、お話作りは言葉の世界を広げると共に、人間関係を豊かにする重要な意味をもつ遊びであると考えられる。

また、幼児が主体的にお話作りに取り組むためには、普段の保育の中で、絵本や紙芝居、素話等のお話に親しむ機会を充実させ、想像の世界に思いを巡らす体験をさせることが大切である。その上で、教師が意図的に画用紙やペープサートの材料を準備する等、環境を工夫することで、子どものお話を作りたいと思う気持ちが引き出されていくと思われる。

幼児の言葉は、お話作り等のごっこ遊びを繰り返し体験していくことで、相手に伝わる表現にかわっていく。そして周りとのイメージを共有できるストーリー性を持ったお話に展開していくようになる。

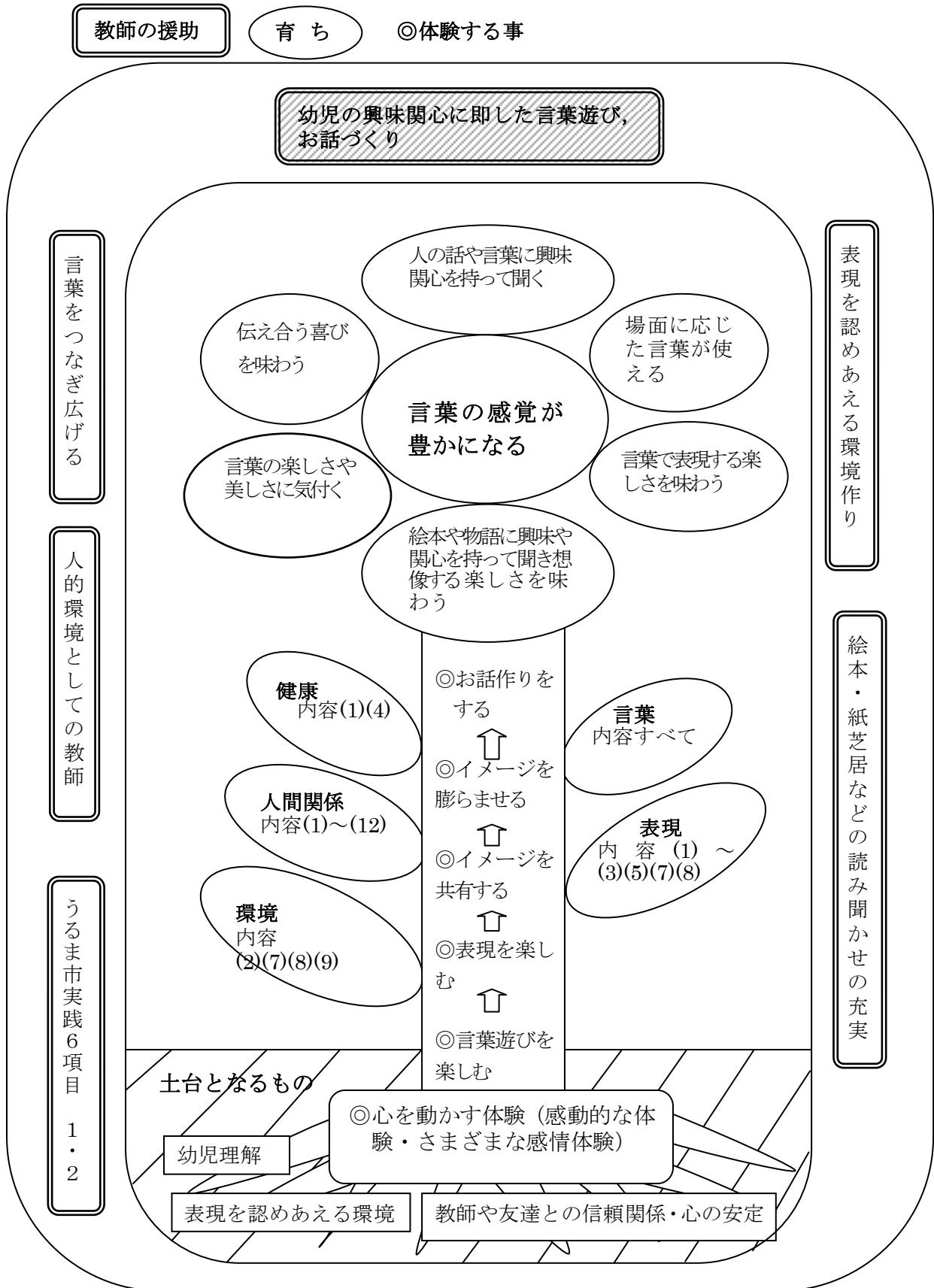
以上のことから、教師は繰り返し体験したくなるような環境構成と援助を工夫することが重要になってくる。

お話作りにおける教師の指導・援助の過程は下の通りである。



7 言葉の感覚を豊かにするための援助と5領域の関わり

幼児は言葉の能力は、園生活でさまざまな体験を積み重ねる中で、各領域の相互的な影響を受けながら発達していく。そこで、本テーマと5領域の関わりを図で示した。

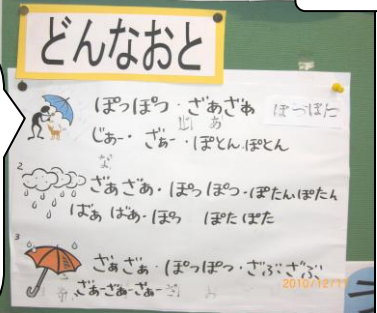


VI 指導の実際

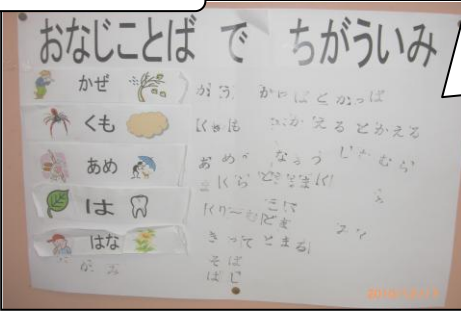
仮説を検証するために、以下の保育計画で研究実践を行った。

	月 日	保育内容 (○言葉遊び◎お話作り*教師によるお話)	ねらい
1	11/1	○同じ音で始まる言葉あつめ *ペープサートによるお話	・喜んで言葉遊びに参加し、言葉の面白さや楽しさを味わう。 ・興味関心を持って話を聞く。
2	11/10	○擬声語・擬音語 ○同音異義語 *手作り紙芝居(縄跳びと時計)	・喜んで言葉遊びに参加し、言葉の面白さや楽しさを味わう。 ・興味関心を持って話を聞く。
3	11/17	・話し合い活動 (運動遊びというテーマのもとに)	・自分の目標を持って運動遊びに挑戦し、その思いを言葉で表現する。
4	11/22	○サイコロゲーム (音節の数だけ進むゲーム)	・喜んで言葉遊びに参加し、言葉の音数に気付く。 ・言葉の面白さや楽しさを味わう。
5	11/25 検証保育	○かくれんぼゲーム (言葉の中に隠れている言葉を探す)	・喜んで言葉遊びに参加し言葉の中に隠れた言葉があることに気付く。 ・言葉の面白さや楽しさを味わう。
6	12/1	・牛乳パックでパクパク人形を作る(牛乳パック)	・お話づくりに興味関心を持ち、牛乳パックで人形を作る。
7	12/8	◎友達を誘ってお話作りを楽しむ *あのやまこえてどこいくの(ペープサート)	・友達と伝え合う楽しさを味わう。
8	12/9	◎友達とお話づくりを楽しむ	・友達と伝え合う楽しさを味わう。
9	12/13 検証保育	◎友達とお話づくりを楽しむ	・言葉で思っていることや考えていること、想像したことを言葉で表現し合って楽しむ。

11/10 の保育活動後



どんな音
子ども達が
イメージして
出てきた
言葉を書き
とり、コー
ナー掲示



同音異義語を
見つけると、
自分達で画用紙
(切って用意
しておく)に文
字スタンプを
押して、張る。
(コーナー設
置)

12/1 の保育活動後



プレゼントを
持ってきたよ

12/8 の保育活動後



『あのやまこえてどこいくの』の絵本をもとに、ペープサートを用いて友達とかけ合いを楽しんだり、自分達でアレンジして楽しんでいる姿が見られる。
例「ねこさん、ねこさん、どこいくの」「あの山こえて、薬を買いに」「薬を買ってどうするの」「薬を買って頭のたんこぶなおすの」

仮説の検証 1

その子なりの表現を受け止め、言葉をつなぎ広げていく援助を行うことで、相手に伝わる言葉になっていったか。

教師の日常的なかかわり

子ども達が思いを表現した際に、その子なりの表現を受け止め、その思いを相手に伝わる言葉で、代弁したり、言葉をつなぎ広げたりしていく等の援助を繰り返し行った。また、子どもが自分の思いをみんなに伝える場面を多く持つよう心掛けた。

～感動的な体験（運動遊び）を通して思いを伝える～

11月17日

フラフープ、縄跳び、ケンパ等運動遊びに取り組んでいる時期

教師：「運動遊びをやってどうだったか教えてね」

A子：「初めはできなかった縄跳びが、今日、できるようになってうれしかったです」

B男：「体育館活動ではケンパがちょっとだけできたけど、今日は上手く出来ました」等の声が聞こえてきた。

～感情的な体験を通して思いを伝える～（パートナーを組んで一人がサイコロを振り、一人がサイコロで出た言葉の音節の数だけ進むゲームを2チームに分かれて行った）11月22日

振り返りの場面 A子（サイチーム）：「今日サイコロゲームで2回勝ったけど、コロチームが4回勝って悔しかったけど、楽しかった」。

B男（コロチーム）：「コロチームが勝ったけど、サイチームが悔しそうだった」。

C子：「Dちゃんとサイコロやって楽しかったです。2回負けて悔しかったけど、楽しかったです」等の声が聞こえた。

翌日、子ども達から「〇〇〇（自分の名前の音節）は3回だよ」等の声が聞こえ言葉の音節に興味を持っている様子が伺えた。

体育館活動ではケンパがちょっとだけできたけど、今日は上手くできました



Dちゃんとサイコロをやって楽しかったです。2回負けて悔しかったけど、楽しかったです



【考察】

以前は「砂場で遊んで楽しかったです」「サッカーして勝ってうれしかった」等、2, 3語文で話が広がらないことが多かった。それで、教師は子ども達の発言に「どこで、だれと、どうやって、それから」など言葉をつなぎ広げていく等の手立てを行った。また、言葉で表現する事が苦手な子に対しては、その子なりの表現を受け止め、状況に応じて、言葉を付け加えたり、思いを尋ねたりして話が伝わりやすいように援助を行っていった。この事例では、子ども達が相手の気持ちを察することや、ゲームをして楽しかったこと、でも負けて悔しかったことなど複雑な感情も言葉で表現できるようになってきたことがわかる。

このことから、教師は幼児が自分なりの言葉で表現した際に、認めて、うなずいたり、言葉で応答したりしながら、必要に応じて仲立ちし援助することで、次第に相手に伝わる言葉になっていくことがわかった。また、このような子ども達の言葉を導いたのは、自分の体で感じた、体をくぐりぬけた実感からで、心を動かす体験からだということがわかった。

仮説の検証 2

幼児の発達や興味関心に即した「言葉遊び」を取り入れ、指導・援助を工夫することで、言葉の音の響きや美しさ、楽しさ等に気付き、言葉に興味関心を持つようになったか。

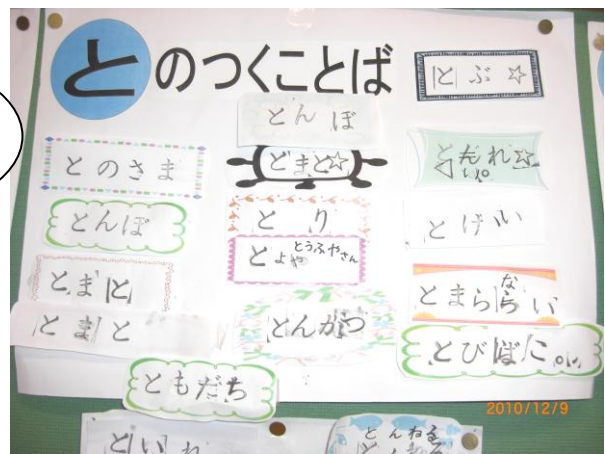
(1) 「同じ音で始まる言葉集め」

11月2日

園全体で縄跳びなど運動遊びに取り組んでいるので、な・わ・と・びの文字をつかって、(な)かよく・(わ)くわく・(と)っても・(ひ)っくりを一つ一つ掲示しながら)話をした。最後の(ひ)っくりの文字を出す前に、A男は「なわとびだよ。だから今度は(ひ)から始まるよ」と予測した。その後で、4つの頭文字から始まる言葉集めをした。子ども達に発表させ、画用紙に文字を記入した。翌日、コーナーを設けて、文字のスタンプを用意すると、(な)のつく言葉は15種類、(わ)のつく言葉は6種類、(と)のつく言葉は15種類、(ひ)のつく言葉は7種類あがった。中には同じ言葉もあったが、スタンプを押すのが楽しいらしく、喜んで言葉を探している姿が見られた。



スタンプを押して言葉集めを楽しむ子ども達



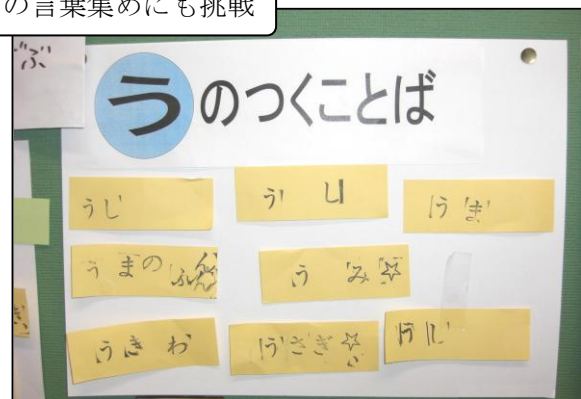
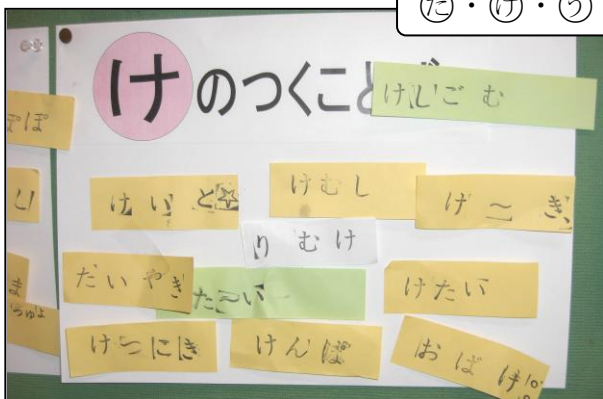
(な)(と)は多く集まり2枚目に突入!!

【考察】

文字スタンプを準備したことで、スタンプを押す楽しさも加わり、積極的に遊びの中で言葉集めに取り組んでいた。言葉集めをした次の日も、「(な)がつく言葉見つけたよ」と言葉を意識している様子や「わ・わ・わ・わ・(わ)が付く言葉ってあんまりないね」と言葉の音の響きを楽しんでいる姿が見られた。その後も言葉集めは続いて、別の音で始まる言葉を集め楽しんでいる姿があった。

このことから、教師が意図的に言葉遊びを仕掛け、幼児が楽しみながら言葉遊びができるような環境構成を工夫することで、言葉の音の響きや楽しさを味わうことができ、日常の生活の中でも言葉に興味関心を持って聞くようになるということがわかった。

(た)・(け)・(う)・(ま)の言葉集めにも挑戦



まず、㊦㊧㊨の言葉の中に隠れている言葉探しを行った。やり方は幼児一人一人に㊦㊧㊨のうちの一文字を与え(文字の書かれたカードを首からかける)友達と相談しながら違う言葉を作っていく。㊦㊧㊨の中には「わに」「とり」等の言葉が隠れていることにすぐ気がついた。

次にアイスクリームの絵とあいすくりーむという文字を掲示し(写真1)隠れている言葉探しを行った。教師は全部で11の言葉が出てくるだろうと予想し絵を準備していたが、子ども達からは予想以上の15の言葉が出てきた。(写真2)

ゲーム感覚ということもあり、ほとんどの子ども達は喜んで言葉遊びに参加することができた。また、振り返りでは「りす、くり、の言葉を見つけて楽しかったです」等の声や「これからも見つける」という声が子ども達から聞こえた。



アイスクリームの絵を6つに分け、後ろに返すと隠れている言葉が表示

【考察】

遊び感覚で言葉遊びを取り入れていくことで、子ども達が興味関心を持って取り組むことができた。子ども達の様子や振り返りでの言葉から、言葉の楽しさや面白さを味わうことができたと思われる。また、「これからも見つける」という言葉からは、意欲が高まり、言葉の楽しさや面白さを味わうことにつながるだろうと考えられる。その後、普段の遊びの中でも言葉や文字の中に何が隠れているか楽しむ子ども達の姿が見られた。

このことから、教師が保育の中で言葉遊びの取り入れ方を工夫することで、言葉に興味関心を持つようになり、言葉の楽しさやおもしろさを知るきっかけ作りになることがわかった。

その後、言葉探しを楽しむ中で、文字に興味関心を示すようになってきた



仮説の検証 3

「お話作り」において、幼児が主体的に「お話づくり」に参加できるような環境や指導・援助を工夫することで、幼児は言葉で伝え合う楽しさを味わい、場面に応じた言葉で表現できようになったか。

保育指導案

(1) 活動名 お話会

(2) ねらい 言葉で思っていることや考えていること、想像したことを言葉で表現し合って楽しむ

(3) 活動設定の理由

幼稚園教育要領の領域「言葉」で「幼児がさまざまな体験を言葉で表現できるようになっていくためには、自分なりの表現が教師や友達など、伝わる喜びと、自分の気付きや考えから新たなやりとりが生まれ、活動が共有されていく満足感を味わうようにすることが大切である。その喜びや満足感を基盤にして、幼児の言葉で表現しよう意欲はさらに高まっていく。」と示されている。また、幼稚園教育は教師主導の一方的な保育の展開ではなく、一人一人の幼児が教師の適切な援助の下で主体性を発揮して活動を展開していく保育が求められている。

そこで、幼児が興味を持ってお話作りに参加し、言葉の面白さに気付き、友達と伝え合う楽しさを味わう中で、満足感やイメージを共有する楽しさを味わわせたい。さらに言葉で表現する意欲やさまざまな言葉での表現の育ちを期待し、本活動を設定した。

① 幼児の実態

自分の思いや考えを友達や教師に伝えることができる子が多く、人前で進んで発表する子も多い。自分の思いを言葉で表現する際に「縄跳びができるようになった」「遠足楽しかった」等、2、3語文であったが、「初めはできなかった縄跳びが、今日、できるようになってうれしかったです」等、言葉の広がりが見られるようになってきた。しかし、普段の生活の中で、イメージしたことや思っていることを言葉で表現することが苦手な子もいる。

② 教材観

自分で人形を作ることで、工夫して作る楽しさや満足感を味わうことができ、人形に対する思いがより深まるであろうと考え、手軽に作れるパクパク人形を取り入れた。パクパク人形は口の動きもあり、実際に会話を楽しむ雰囲気になる。また、人形という道具を使うことで、普段の会話では使わない言葉も言えて、なりきって友達と会話を楽しみやすく、言葉で表現する楽しさを味わうことができると教材だと考える。

③ 指導観

楽しい雰囲気の中で子ども達が主体的にお話会を展開できるよう援助し、発表しない子も、お話会を参観することで、言葉の楽しさや面白さに気付き、自分も言葉で表現してみようと思うきっかけづくりにしていきたい。また、みんなの前でお話をさせることで、満足感を味わわせ、言葉で表現しようとする意欲を高める言葉かけや援助を心がけたい。

活動後の振り返りでは、本時の活動での幼児の思いを聞き、考えや気持ちを共有できるような場にしたい。振り返りを通して次回の保育内容を再構成することができるのではないかと考える。

(4) 本時の展開

指導案				
平成 22 年 12 月 13 日 (水) うるま市立天願幼稚園 男児 18 名 女児 13 名 計 30 名				
幼児の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・パクパク人形作りでは全員が興味関心を持って喜んで作ることができた。 ・パクパク人形を用いて友達同士で会話を楽しんでいる姿が見られる。しかし、中には興味関心を示さない子もいるが、教師がパクパク人形を用いて話しかけると、その子なりに返事を返し、会話を楽しむことができる。 ・自分の思っていることを進んで発表できる子が多い。みんなの前で発表する事が苦手な子も、後で教師に伝える等、意思表示できる子が多い。 			
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・思っていることや考えていること、想像したことを言葉で表現し、伝え合いを楽しむ。 			
<活動仮説>				
<ul style="list-style-type: none"> ・お話作りをする場で、テーマを設け少人数で行わせることで、友達と言葉の伝え合いを楽しむことができるであろう。 ・お話作りをする場で、認め、励ます言葉をかけることで、言葉で表現する楽しさを味わうことができるであろう。 				
時間	☆環境構成 ●教師	○予想される幼児の活動	◎教師の援助	*評価項目
9:30	<p>《教室》</p> <p>●</p> <p>○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○</p> <p>○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○</p> <p>○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○</p> <p>【準備物】</p> <p>ペープサート</p> <p>●</p> <p>○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○</p> <p>○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○</p> <p>○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○</p> <p>3人グループに分かれる (全部で 10 グループ)</p>	<p>○教師の話静静地聞く。</p> <p>○自作のパクパク人形でお話をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何の話をしたいか考えて、テーマ別に座る。 ・グループでお話作りを楽しむ。 <p>・お話作りに興味を示さず、主体的に取り組もうとしない子もいる。</p> <p>・一人一人が別々の話を展開しているグループもある。</p> <p>○お楽しみ会でお話をする。(代表 2, 3 グループ)</p> <p>・お話に興味関心を持って聞く。</p> <p>○教師や友達の話聞く。</p>	<p>◎みんなでお話作りを楽しめるように、ペープサートを用いて「お話の国」に出発する事を伝える。</p> <p>◎イメージを共有して参加できるように、テーマをみんなで考えて、テーマ別に座る。(例：サンタのお話の国) また、一人一人がグループの中で発言できるようにグループの人数を少人数(2～3人)にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれのグループのお話を聞きながら、認めたり、励ます言葉をかけることで、喜んでお話づくりに参加することができるようにする。 ・言葉をかけ、気持ちを汲み取りながら、必要に応じて、教師も一緒にお話作りに参加し、イメージの共有化を図る。 <p>◎教師もうなずいたり、応答したりして、一体感が感じられるような場作りを心がける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1グループのお話が終わった後は、「どこが面白かった」等、子ども達からの感想の言葉を拾いながら、満足感が味わえるような言葉をかける。 ・お話の中で、出てきた言葉を取り上げて賞賛する。 <p>◎今日の活動を振り返り、わかったこと、思ったこと等を発表する場を設ける。</p>	<p>*興味や関心を持って教師の話を読んでいるか。</p> <p>*お話作りに喜んで参加し伝え合いを楽しんでいるか。</p> <p>*お話作りを楽しんでいたか。</p>
10:15				
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・お話作りを通して友達と伝え合いを楽しんでいたか。また、教材・援助は適切であったか。 ・教師も一緒に楽しむことができたか。 			



ガジュマルの森に行こう

お話の国（各テーマに分かれ）でお話作りを楽しむ



誕生会するからお家に来てね

みんなの前でお話を発表する



友達のお話を聞く

(6) 考察

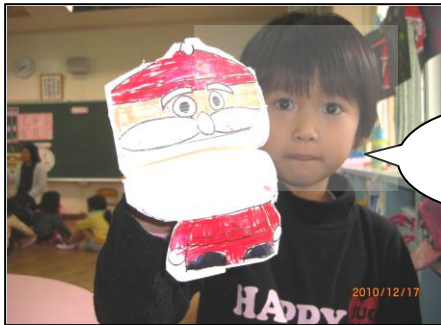
友達と言葉で伝え合いを楽しめるように、ペープサートやパクパク人形を準備したところ、友達を誘って言葉のかけ合いやお話作りを主体的に楽しんでいる姿が見られた。それで、検証保育の2週間前にパクパク人形作りを行うと、全員が喜んで製作することができた。その日から、ごっこ遊びに興味を持たなかった子も、パクパク人形を使って友達と会話を楽しむ姿が見られた。

しかし、一人一人を見てみると、相手の言葉を聞いて、それに応じた言葉で表現できる子と苦手な子がいるなど個人差が大きいことがわかる。苦手な子に対して、友達とイメージを共有できるような具体的な言葉かけが不十分であったため、相手の言葉を聞いて、イメージを膨らませて、自分の思いを言葉で表現することが難しかったようである。また、どの子も楽しめるような工夫にも課題が残った。

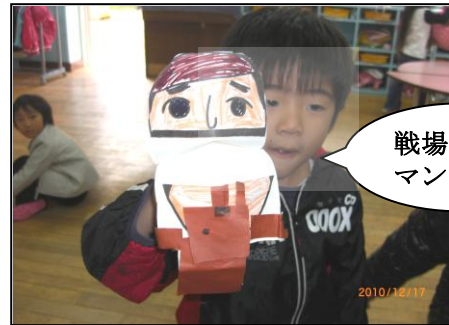
教師も積極的にお話作りに参加し、意図的・具体的な言葉かけや援助をすることで、友達とイメージの共有が図られ、言葉で伝え合う楽しさを味わうことができるであろうと考える。また、お話作りで、イメージを共有し言葉で伝え合う楽しさを味わう経験を積み重ねていくことで、人の話を聞き、場面に応じた言葉をつかうことができるようになっていくと考える。今回の援助の課題を踏えて、その後の子ども達の言葉を観察していきたい。

検証保育後の子ども達の姿

パクパク人形を1人何種類も作り、色々な人形でお話作りを楽しんでいる姿が見られた。また、イメージを共有する事が苦手で、自分勝手にお話を進めていた男の子達も、繰り返しお話作りを楽しむ中で、次第にストーリー性を持ったお話ができるようになった。



メリークリスマス！！



戦場カメラマンです！

遠足をテーマにお話作りを楽しむ2人

1, 動物園へ行こう

2. いいよ

3, トコトコトコ。
うわー！キリンだ

4, エサあげたいな

5, 沖縄の所に行けば
エサあげられるよ

6. 本当？

7, 本当。じゃあエサも
らいに行こう

8, エサちょうーだい

途中で、「おにごっこしよう」と話が脱線しようとする場面も見られたが、「でも動物園では止めておこう」「じゃお家に帰ってからしよう」とお話作りを楽しんでいた2人。

Ⅶ 幼児の変容

言葉遊び・お話作りの活動後の子ども達の言葉の変化について、園生活での観察と保護者のアンケートで調査した。

1 《園生活で見られた言葉の交流》 卓球の遊びを通して

園長先生から3学期始業式にもらった卓球で遊ぶ R 男と K 男。

A 子と T 男：「次，卓球させて」，でも，R 男と K 男はなかなか話を聞いてくれない。

教師（仲立ちを行う）：R 男と K 男に，A 子と T 男が何か訴えていることを伝える。遊びを中断し，4人で話し合う姿が見られた。

A 子：「次，卓球させて」

K 男：「終わったらね」

A 子：「球が落ちたら交替だよ」

R 男：「嫌だ。自分達からやったから自分達が決める」少し間が空いて

R 男：「じゃ，させるよ。2点になったら交替ね」

A 子：「早い。R 男と K 男はさっきからいっぱいやっていたさー。11点で交替しよう」

K 男：「長い，4点にしよう」

T 男：「じゃあさー，真ん中の8点にしたら」

ということで，話し合いは終わり，卓球を始める4人。その後，様子を見に行くと，子ども達も入れ替わり，遊びを進めていた。ネット代わりに台を置き，点数係をしていた F 男が「試合しているよ」と卓球ごっこがさらに発展していた。

次，卓球
させて



嫌だ，自分達からやった
から自分たちで決める

球が落ちたら
交替だよ



点数を入れる
係り



台をネットに見
立てて，卓球ご
っこを展開



その後，卓球ごっこは
さらに発展

【考察】

以前，R 男は自分の思い通りにいかないと，かんしゃくを起こしたり，自分の思いだけを一方的に話し，相手の話を聞くことは少なかった。K 男はリーダー的な存在だが，一方的に自分の意見を通す姿が見られた。

この観察記録からは，子ども達が会話を交わしていく中で，それぞれがしっかりと自己表現（主張）をしながらも，相手の話を聞き，自分の行動までコントロールしていく姿があった。T 男が言った「じゃあさー，真ん中の8点にしたら」の言葉から，双方の話を聞いて自分なりに良い解決策を探り，答えを出したことが伺える。それを3人が納得し，受け入れ，さらに遊びが発展していく姿には，友達の気持ちを理解しながら，相手の言葉に応じた（場面に応じた）言葉のやり取りがあったからだと考える。

R 男と K 男は，お話作りが好きで，常に積極的に友達を誘ってお話を作っていた。お話作りを通して，相手の気持ちを理解することも学んだのではないかと思われる。このように，お話作りは言葉のみならず，まわりとの関係を調整する力や自己抑制力も期待できると考える。

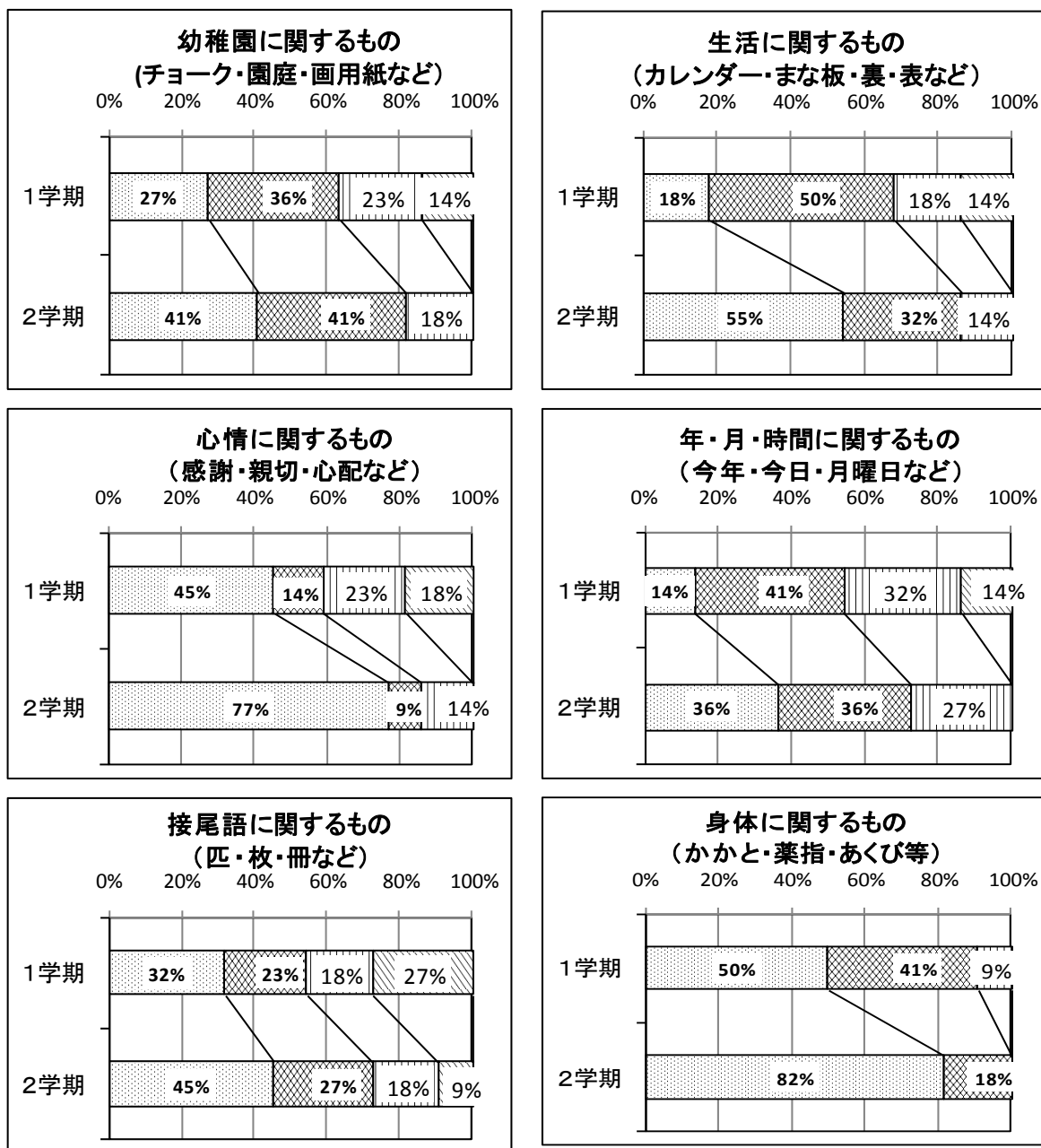
また，全体的に，自分の思いを相手に伝える言葉で表現できる子が多くなったように感じられた。このことから，お話作りは，友達の話を聞く態度を育て，場面に応じた言葉を交わすことができるようになる適切な体験であったと思われる。

2 《保護者アンケート》

(1) 語彙調査 …… 30名中24名回収

幼児の身近な語彙，知ってほしい語彙を考慮し，語彙表を作成し調査を行った。

獲得率 A: 100~76% B: 75~51% C: 50~26% D: 25~0%



【考察】

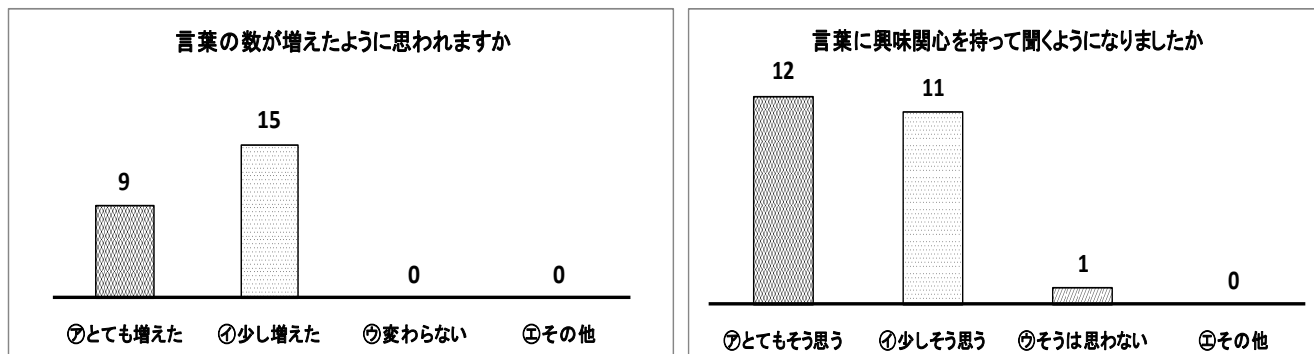
すべての項目で，1学期に比べて2学期の語彙の獲得率が高くなっている。保護者の「大人も分からない言葉があって，勉強しないといけない」という声もあったことから，この結果は，幼稚園での手立てだけでなく，家庭でも言語環境を意識するようになったことも要因の一つだと考えられる。しかし，獲得されていない語彙の中には，知ってほしい日常で使う言葉もあった。

この結果を踏まえて，教師は幼児が獲得して欲しい言葉を普段の保育の中でも意識して使うことや幼児が主体的に遊びの中で活用できるような教材・教具の開発や教材研究の充実（言葉に関する絵カード等），環境構成の工夫が必要であると考えられる。また，普段幼児と生活を共にしている保護者と連携を取りながら言語環境を整えていくことの大切さがわかった。

(2) 保護者からみた子どもの言葉の変容・・・30名中24名回収

1月に保護者へ言葉に関するアンケートを行った。1学期と比べて、2学期の子どもの言葉のようすについて3項目質問し、次のような結果となった。

《項目1》 言葉の数が増えたように思われますか 《項目2》 言葉に興味関心を持って聞くようになりましたか



結果：言葉の数が増えたように思われるか、という質問では、とても増えたように思うが9人、少し増えたように思うが15人。言葉に興味関心を持って聞くようになったかの質問では、とてもそう思うが12人、少しそう思うが11人、そうは思わないが1人という回答であった。

《項目3》 言葉に関してお子様の姿に変化が見られたことがあれば記入してください(24人中20人が回答)

結果：(主な内容)

- 言葉遊びを家庭でも楽しんでいる
- 言葉を組み合わせて話せるようになった
- 言葉の意味を理解するまで聞いてくるようになった
- 会話が続けるようになった
- 文字に興味を持ち始め、教えてもいないのに、読み書きができるようになった
- 「～はこうするんだよ」という話をすると「なぜなら～だから」と本人から付け加えて言うようになった
- 「～は立派だね」等、しっかりとした言葉を使うようになってきた
- 何か手伝いをお願いしたら「今〇〇やっているから、これが終わってからね」等、考えて言葉で言うようになった
- 小さい子ども達に遊びを中断させられたり、おもちゃをバラバラにさせられても「赤ちゃんだから、いいんだよ、お母さん心配しないでね」と思いやりの言葉が出てきた。
- 重たい荷物をもとうとすると「ママ、無理しなくていいんだよ。パパが帰ってきたらいいんだよ」と言ってくれた時、びっくりした

【考察】

このアンケート結果から、保護者は、1学期に比べて子どもの言葉の数が増え、言葉に興味関心を持って聞くようになったと感じていることがわかる。保護者の記述(a)から、園で取り組んでいた言葉遊びを家庭でも行っており、幼稚園での取り組みが保護者の意識にも影響を与えているのがわかる。回答で最も多かったのは、(c)の言葉の意味を尋ねることが増えたという内容であった。このことから、幼児の言葉への興味関心が高まったことがわかる。会話が增えた、語彙が増えた等の記述や、会話のなかに接続語を交えて話すようになった等の内容から、言葉の獲得が促進され、表現の仕方が豊かになったと捉えられる。また、(i)、(j)の相手の立場や心情を考えて話す会話からは、場面に応じた言葉で表現できるようになってきたと捉えられる。

以上のことから、言葉遊び、お話作りの活動を取り入れたことで、言葉に対して興味関心が高まり、言葉の数が増え、表現が豊かになってきたと考えられる。

VIII 研究の成果, 課題, 対応策

1 成果

- ・教師が幼児の表現を受け止め、思いをきき、言葉をつなぎ広げていく等の援助を心がけて実践したことで幼児に言葉の広がりが見えてきた。
- ・幼児の興味・関心に即した言葉遊びを取り入れ、指導・援助の方法を工夫したことで、幼児の言葉に対する興味関心が高まった。
- ・お話づくりが繰り返し楽しめるような教材・教具や指導・援助を工夫することで、友達を誘ってお話作りを楽しんでいる姿がよく見られ、言葉で思いを伝え合おうとする幼児が増えてきた。
- ・検証保育後の園生活で、場面に応じた言葉で表現できるようになった幼児の姿が多く見られ、互いの伝え合いは内面的な発達にもつながることがわかった。
- ・語彙に関わるアンケートをとったことで、保護者が子どもの言葉を注意深く聞くようになった等、保護者の意識の変容があった。

2 課題

- ・幼児の興味関心を高める課題活動の工夫や、他児へ伝えるための指導の工夫
- ・言葉遊びにおける、文字が読めない子への配慮
- ・お話作りでの、教師の意図的・具体的な言葉かけや、積極的な関わり方

3 対応策

- ・幼児の興味や関心をひきつける、保育の総合的な捉え方
- ・音声による情報を与えるなどの、文字が読めない子への援助の工夫
- ・幼児一人一人の細かな記録を活用した、個に応じた指導や援助の工夫

〈参考文献〉

文部科学省	平成 20 年	『幼稚園教育要領解説』	フレーベル館
横山洋子執筆	2007	『言葉あそび』	黎明書房
榎沢良彦・入江礼子編著	2008	『保育内容 言葉』	建帛社
小田豊・芦田宏編著	2009	『保育内容 言葉』	北大路書房
秋田喜代美・野口隆子編著	2009	『保育内容 言葉』	光生館
荒木尚子論説	2009	『言葉による伝え合いをはぐくむ指導』	
中島千恵子執筆	2009	『あそんで学ぶ文字・言葉』	黎明書房
岡本夏木著	2009	『幼児期』	岩波新書
旧志川研究所資料			